

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念にある「今まで通りに誇りを持った暮らし」という言葉の中に当然地域での生活が含まれている事を全スタッフが理解し、実践に移している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で利用者スタッフ全員がオリンピア灘の理念を唱和し理念の確認を行っている。また、日々のケアにおいても、理念が実践されているか、スタッフ同士で声を掛け合っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議、家族会等を通してまた、民生委員の方や一般の方々の見学を多く受け入れ理念を分かりやすく説明させて頂き、実践している場面もご覧頂いている。また、ホーム内随所に理念を掲示しており、来訪者の目にとまるようになっている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出掛け、近隣の方々と挨拶を交わしており、利用者が訪問された時は、温かく迎えていただけるような関係が出来ている。また、夕涼み会などのホームでの行事の際には、近隣の方々にも気軽に来ていただけるようチラシを配布して、交流を深めている。	近隣の方との行き来の頻度を増やし、より地域に密着したホームにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入し、地域の行事には利用者と一緒に積極的に参加している。また、近隣の保育園との交流の機会も度々持っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人内でのオリンピア福祉塾、介護者教室、介護リフレッシュ教室、地域での会合に講師としての参加を通して、地域の方の「認知症」理解等に役立てて頂いている。また、実習生を受け入れたり、キャラバンメイト養成講座に参加しているスタッフもいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は外部評価、自己評価の意義を全スタッフに伝え、職員の意見を反映した自己評価作成に取り組んでいる。また、外部評価の結果はリーダー会、カンファレンスなどで報告し、より良いケアのあり方について何度も話し合い、実践に移していける様にしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームからの報告が参加者の皆様に理解して頂きやすいよう、映像や写真、ホーム便りなどを活用するなど工夫している。それによって、参加者の皆様から意見も出やすくなり、双方向的な会議となっている。また、評価への取り組みについても報告し、意見をもらっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも市担当者とは役所に出向いたり、電話等により頻繁に連絡を取りながら適切な指導を受けている。また、市担当者の見学、市の紹介による事業所の見学も受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人主催の介護者教室で成年後見制度について学ぶ機会があった。数名の利用者がこの制度を利用されている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会、リーダー会、カンファレンスにおいて虐待の危険性、早期発見の重要性、職員の心のケア法に至るまで総施設長、ホーム長より説明があり全スタッフが理解している。また、社会で起こった虐待事例を伝えと共に、対応方法を話し合い虐待防止を徹底している。		日々変化するスタッフの心理状況をリーダーが把握し、虐待の危険性を持ったスタッフがいないかを常に察知できるように、今以上にリーダーとスタッフの関係が密になるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>利用者がホームでの生活について外部の方にもお話ししていただけるようにボランティア、実習生、見学の方を積極的に受け入れいつもオープンにしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にご本人とご家族を取り巻く環境や思いを お聴きし、早急かつ適切に対応できるように、また同法人内 の他のサービスも含め柔軟な対応が行えるように尽力して いる。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	サービス利用開始にあたって事前面接(自宅・入院先・入所 先等)を行い、見学していただき、ご家族の協力を得て徐々 に馴染んでいただけるよう工夫している。また、ご家族からご 本人の情報を最大限お聴きし、その方に応じた安心できる 声かけを実践している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	生活の主人公は利用者ご本人であり、スタッフは生活のお 手伝いをさせて頂く者として、共に生活を送る中で、一人の 人と人としての関わりが出来るよう努めている。その中でお 互いの喜び悩みを分かち合える関係を作っている。 <b>日常生 活の中で利用者が職員を支える</b> という場面も多く生まれて いる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	ご本人がその人らしく今まで通りの生活を送るためには、ご 家族の力が必要である事をお話しし、一緒にご本人を支え られる様に配慮している。また日々の生活の中でスタッフが 気付いた事や嬉しかった事などをこまめにお話しし、スタッ フの利用者の皆様に対する思いもお伝えできる様に努めて いる。		訪問の回数が減っているご家族に対しては電話連絡等 により報告連絡を頻繁に行う様にしている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	ご本人のご家族に対する思いやご家族のご本人への思い などをお聴きし、お互いの繋がりを深めていただけるように 努めている。また、行事等にご家族にも参加していただき、 一緒に過ごしていただける機会を作っている。来訪時には ご本人ご家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないう、支援に努め ている	ご本人やご家族から昔のお話しをお聴きする中で、馴染み の人や場所を把握し、会いに行っていたり出掛けたり していただいている。知人や友人にご本人が自由に電話連 絡や手紙のやりとりが出来る様支援し、会いに来られる方も いる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	利用者スタッフとの関係作り以上に、利用者の方同士の関 係作りが重要である事を全スタッフが十分に理解している。 様々な場面において利用者お一人おひとりの状況を把握 し、利用者同士が相談して物事を決め、支え合って動いて いただけるよう働きかけている。		利用者同士の支え合いの場をより多く生み出すため、ス タッフは手を出しすぎないケアの徹底を今後も続けてい く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、継続して来訪されるご家族も多く中にはボランティアとして来訪して下さるご家族もあり、継続的な関わりを持つ事を大切にしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からご本人の要望を聞き出すように努めている。困難な場合も表情や行動、言葉の端々から気持ちをくみ取れるよう努めている。また、お話しする場所もその方が落ち着いて話しやすい場所を選ぶよう配慮している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	理念にも挙げられている「今まで通りの生活」ということの意味、大切さを全スタッフ把握しており、お一人おひとりの生活スタイルに沿った支援が出来るようご家族、知人からの情報収集に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	変化する利用者の有する力に柔軟に対応し、心身状態を把握した上で、新たな事にチャレンジしていただいている。出来る出来ないを一切決めつけない事で出来ないと思われていた事が出来るケースも多くある。		利用者には、今後も様々な事に挑戦して頂き、その中でお一人おひとりが有する力以上のものが発揮できるよう努め、生きる喜びを日々味わって頂けるよう今以上に努力したい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中でご本人ご家族の要望をお聞きし、また、折に触れてスタッフ側から聞き出すための働きかけを行い、センター方式によるアセスメントを作成し、介護計画に反映させている。また全スタッフがアセスメントを含め、様々な視点から <b>意見交換</b> をするようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々介護計画の実践をしていく中で、気付いた事はその都度 <b>日誌に記録</b> するようにし、 <b>カンファレンスを行ない</b> 、見直しの際には活用している。また、状態が変化した時には見直し前であっても、改めてアセスメントを行い、ご本人やご家族の要望もお聞きし、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他の方との関わりが一目で分かるように入居者全員の日誌と、個別の日々の積み重ねが分かるケース記録を残している。いずれも入居者の生きた証であるという認識を全スタッフは持ち、 <b>発言・仕草等を細かく記録に残し介護計画に役立っている。</b>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じて、話し合いを重ねながら通院や外泊のお手伝いをさせて頂いている。また、重度化や看取りに関しても必要な医療との連携を図り、ご要望にお応えできる様に尽力している。また、デイサービスを開始した事により新たな交流も生まれ、やがて馴染みの関係となり入居されたケースもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防避難訓練で地元消防署の協力を得ている。教育機関等からの実習生、ボランティアも多数受け入れ、近隣保育園の園児との交流も図っている。また、近隣の勤労市民センターで囲碁を楽しまれている方もいる。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望により <b>他のデイサービスを利用されている</b> 方もいる。また、医療機関の指導を受け、日常生活の中で出来るリハビリを実施している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加している。その職員から地域の周辺情報や支援に関する情報交換を行い、関係の強化に努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力病院等を紹介させていただいた上で、ご本人あるいはご家族の意向を聴き、 <b>かかりつけ医の変更あるいは継続をその方に応じて対応している。実際かかりつけ医とホームと連絡を密に取り合い、ターミナルを迎えられた方もいる。</b>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい内科、心療内科の医師の協力を得て、定期的な往診時また受診時に、認知症に対するアドバイスを受け、適切な治療方針を一緒に考えている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師有資格者を介護職員として配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が常に行えるようにしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院として地域の総合病院を確保しており、頻繁にスタッフがお見舞いに行く事により、入居者の情報交換を行っている。また、入院によるダメージを最小限にとどめるため早期退院に向けて、ご家族、医師との話し合いにホームからも参加させて頂いている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「 <b>重度化した場合における対応に係る指針</b> 」の説明をさせて頂き、ご本人、ご家族の意向を十分に聴き出すようにしている。また、重度化したり、終末期を迎えられた場合には、医師も交えて再度話し合いの場を設け、状態の変化に応じた体制作りをしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<b>ご本人やご家族の意向を踏まえ、安心して納得いく最期を迎えられるように、かかりつけ医の協力を得て、適切な指導を受けホーム長、スタッフ、医師、看護師が、24時間体制で協力して支援に取り組んでいる。</b>		実際にホームで看取らせて頂いた方がいらっしゃる。その際、医師やご家族と相談し、毎日往診に来て頂くなどチームとして最高の環境が整えられるよう動いた。今後もその関係が継続できるよう普段からのこまめな報告連絡相談を続けていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られる際には、ご本人やご家族が相談しやすいように、こちらからも積極的に情報提供している。また新しい事業所職員への申し送りも、書面や電話にて丁寧に行うようにしている。移られた後は利用者もお誘いし、スタッフが様子を見に行くようにしている。		移られる先の事業所職員にこちらでの生活の様子を見に来てもらう機会作りに努める。その上で可能な限り今の最高の状態が継続されるよう、お話しするようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員会にて個人情報保護法の研修を受け全スタッフが重要性を認識している。また、日々のケアにおいても、言葉掛けや対応に細心の注意を払い、入居者の誇りやプライバシーを損なわないよう徹底している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>ご本人が全ての事柄において自己決定ができるように、スタッフは必ず依頼型でお話する事を徹底している。また、意思表示が困難な方に対しては、表情や仕草等から要望、希望を汲み取るようにしている。</p>	<p>利用者の皆様お一人おひとりのやり取りを、カンファレンス以外のちょっとした時間でもスタッフ間でこまめに情報交換しているので、今後はそれもきちんと記録に残していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎朝、今日一日どのように過ごしたいかお聴きし、お一人おひとりの希望に添って支援している。「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を全スタッフは認識し、柔軟に対応している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしさが失われない様にお好きな洋服を着て、お好きな理容・美容院に行っていただけるよう、お一人おひとりにあったお手伝いをさせて頂いている。</p>	<p>現在、近くの美容院の方にもホームの行事に参加して頂いている。今後も積極的にそのような機会を作り、美容院にいる時間だけではわかりにくいその人らしさを見て頂ければと考えている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りの段階から料理の本をご覧頂いたり、お買い物に行き食材を選んで頂くなどお一人おひとりの好みに合わせた食事をしていただける様にしている。調理から片付けまで利用者主体で行っており、楽しい雰囲気スタッフも一緒に食事をしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居時にご本人やご家族から馴染みの嗜好品をお聴きし、継続して楽しんで頂けるように支援している。</p>	<p>年齢を重ねたり関わる人が変わっていく中で嗜好も変わっていく場合もあるので、今後も現在の姿勢を崩さずこまめにお聴きしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おひとりお一人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄していただけるよう声掛けやお手伝いをさせて頂いている。また、ホームに入居されてから、排泄用品を使用されない方が増え、尊厳を持った暮らしを送っていただけるようなケアに努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日時間は一切決まっておらず、お一人おひとりの希望に添った入浴の支援をしている。朝や夜間の入浴の際には、他のフロアのスタッフとも協力しながらご希望に沿えるようにしている。また、入浴の嫌いな方にも、気持ち良く入っていただけるように、入浴に対する苦痛を軽減できるよう援助している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出や入浴、その日の体調などに配慮し、必要な休息を取っていただけるよう声をお掛けしている。また、食後にはゆったりとした音楽をおかけするなどして、心地よい時間を過ごしていただけるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活でのその方の得意分野や役割を活かせるよう、場面作りをさせて頂くだけでなく、ホームでの生活の中で新たな役割や生きがい生まれるように、様々な事に挑戦していただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に添って、お一人おひとりにあった金銭の管理をして頂けるようにしている。お金を所持していることから、安心感も生まれ、買い物への意欲が高まることも実証されている。また、管理の難しい方にも、お買い物の際にはお金をお渡しし、お店の人と直接やり取りして頂けるように、支援させて頂いている。		ご家族にご本人がお金を管理される事の大切さについてより理解を深めて頂けるようお話しし、お金をご自分で管理される方を今以上に増やしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に自由に外出していただいている。行き先もご本人と相談したり、それが難しい方には、これまでの生活習慣を考慮し、様々な場所への外出を楽しんで頂けるよう働きかけられている。電車・バス等を利用しての外出も楽しんで頂いている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の思いや願いを実現するよう、ご家族の理解を得、計画的に企画し実行に移している。今年の春には、たつての希望であった、 <b>沖縄旅行</b> を実現させた利用者もいる。		今出ている希望について順次実現に向けて企画していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙のやり取りが出来る環境作りを行っている。毎年ご家族に年賀状を出すための支援もしている。また、プライバシーにも細心の注意を払っている。		手紙に関しては、季節の挨拶だけでなく、日々のご様子などもこまめにお伝えしていただけるよう、ご本人の意向もお聴きしながら、今以上に機会を増やしていければと考えている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問していただけるようご家族に案内している。訪問時には好きな場所でくつろいでいただけるよう配慮している。来訪者も多く泊まれる方もいる。		訪問時は共用スペースで過ごされる方が多く、ご家族やご友人が他の入居者の方と良い関係を築かれている。そのことが居心地の良さを生み出している要因にもなっているので、今後もスタッフが架け橋となりながら、継続していただける様努めたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「いかなる場合も身体拘束は行わない」ということをリーダー会、職員会、カンファレンス等において、スタッフは常々確認している。又、ご家族に対しても、そのように説明させていただいている。		今後もこの姿勢を貫き通すという固い意志を持ち続け、新入職員配属の際には徹底した意識付けと教育を今後も継続する。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・エレベーターの鍵を掛けず、利用者が自由に出入りできるようにしている。スタッフは利用者お一人おひとりの行動を常に把握すると共に、見守りを徹底している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はスタッフが一緒に生活を送る事によりお一人おひとりの様子を把握している。夜間はこまめな巡回を徹底する事により24時間体制で安心して生活を送っていただけるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や薬剤の管理は日々変化する利用者の状態を見極めて管理方法を変えている。基本的には当たり前の生活を送っていただく上で必要な物が多く、取り除くことにより危険回避をするのではなく、スタッフが危険予知を十分に行い、安全に生活して頂ける様にしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<b>利用者お一人おひとりの身体状況、生活環境を把握し、予測される事故を検討し、速やかな対応を行っている。また、事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、今後の予防対策について話し合い、ご家族に報告している。</b>		今後もハード面、ソフト面含め、あらゆる視点で事故防止対策を検討できるよう、日々の勉強と情報交換、利用者との深い関わりを継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	神戸市市民救命士講習に定期的に参加し、全スタッフが心肺蘇生法、AEDの使用法、怪我等の応急処置に関する知識と技術のトレーニングを行っている。また、スタッフの中の <b>インストラクター資格</b> を持った者が最新の技術を全スタッフに伝達している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防避難訓練を利用者と一緒に行っている。消防署員より安全に避難できる方法、消火器の使用方法等も指導を受けている。また、消防設備の点検も年2回実施している。また、地域の協力も自治会を通じて呼び掛けており、いざというときには協力していただけるようになっている。	夜間想定訓練	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時、家族会、来訪時等に、利用者お一人おひとりの状況に合わせてリスクについて説明し、その人らしい生活を送っていただくためには、リスクもある事を理解していただけるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフが共に生活させていただく中で、常にさり気なく体調の変化に気付けるようにしている。また、気になる事があれば、24時間電話で相談できる医師も確保している。		今後も小さな変化に気付けるよう日々の関わりを大切に、医師にも早い段階で相談する現在の姿勢を継続していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理担当スタッフをおき、全スタッフが薬の内容を把握できるように薬ファイルを作成し、新しい薬が処方された際には目的と服薬時間などを申し送っている。また、ご本人服薬時にはきちんと服薬できているかを確認する事を徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事量、水分量を把握し、 <b>お腹の張り具合</b> 等に十分気をつけるようにしている。極力自然排便できるように、食物繊維の多い食品や乳製品を多く摂ると共に、 <b>適度の運動(散歩等)</b> をしていただくようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	法人内で口腔ケアに関する講演会を開き、利用者と一緒に参加し、理解を深め、重要性を再確認した。そして、毎食後お声掛けさせていただいて、出来る限りご自分でケアして頂けるよう取り組んでいる。		全スタッフの理解を今後も深めると共に、以前の様に歯科衛生士資格取得者をスタッフとして確保し、こまめに口腔状態を専門的に把握できる環境を整えるなどしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが一緒に食事をするのでお一人おひとりの好みや食事量を把握し、異変があればスタッフ間で共有できるよう、日誌でも申し送るようにしている。水分量も把握できるように、チェックしている。また、定期的に法人内の栄養士のアドバイスも受けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルを作成し、全スタッフが理解し、早期発見・早期対応に努めている。また、神戸市、法人間の連絡情報収集を密にしている。インフルエンザに関しては予防接種を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具等は食器洗浄機での熱湯消毒に加え、定期的に漂白し清潔を心掛けている。食材に関しては、賞味期限に気をつけ、冷蔵庫・冷凍庫のチェックを頻繁に行っている。		現在の徹底した衛生管理を継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気の皆様をお迎えできるよう、玄関には季節の花を置いている。また、利用者やご家族の意見も聴きながら、玄関周りの環境整備に努めている。		近隣の方の意見も気軽に聴かせていただけるように、今以上に交流の機会を作っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアがそれぞれ利用者の皆様の意見やこれまでの暮らしを考慮し、居心地の良い空間づくりに努めている。季節毎の飾り付けや花を生けて頂くなどの工夫も行っている。また、天窓を利用して光を取り入れたり、換気をしたりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのあらゆる所にもソファやテーブルセットを配置し、おひとりで過ごしたり、お好きな方と語らえるスペースにしている。		今後もお一人おひとりの様子や心の動きに注意しながら、くつろいで頂ける空間づくりに努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や調度品等様々な物を持ち込まれ、ご自分だけの寛げるスペースを創り出されている。また、利用時の希望により畳の部屋にされている方もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室・廊下の窓を開け朝はもちろんの事、状況に合わせて随時換気をしている。また、冷暖房も外気温との温度差を少なくすると共に、利用者の様子を見ながら温度調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が日々より自立した生活を送っていただける様に、居住環境を常に見直し工夫している。		より自立した生活を送って頂くにはどうしたらよいか、という視点を今後も大切にし、環境作りにも努めていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用時にスムーズにホームでの環境になれていただける様にスタッフが丁寧にお話しし、わかりにくい点があればどのようにすれば良いか一緒に考え、改善している。状態が変わった際にも、同じようになるべく改善策を一緒に考えて頂き、安心して生活を送っていただけるような工夫をしている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<b>畑で野菜や果物の栽培</b> をしたり、屋上でお茶を飲みながら日光浴をしたりして頂けるようになっている。また、 <b>ベランダでも、家庭菜園</b> を楽しんだり、洗濯物を干したりして頂ける。		

. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
	利用者の2/3くらいの
	利用者の1/3くらいの
	ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
	数日に1回程度ある
	たまにある
	ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
	家族の2/3くらいと
	家族の1/3くらいと
	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念にある、「生活の主人公は利用者ご本人です」という言葉の意味を全スタッフが理解しており、実践に移すことで、利用者の生き生きとした笑顔が生まれている。スタッフも「私も住みたいグループホーム」を目指すことにより、楽しく笑顔でお手伝いさせていただいている。来訪者は「皆さんの笑顔が素敵ですね」と同時に、「先々私もここに入りたい」と言って下さる。そんな素晴らしいグループホームだけには留まらず、制度改正に合わせて、2006年5月には神戸市で初めてグループホーム共用型の認知症デイサービスを開始、常に向上心を持った運営に取り組んでいる。